

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100078		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホーム さざんか園		
所在地	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲3475-1		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topjigvosyo_index=true
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年12月15日	外部評価確定日	平成29年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・デイサービス、小規模多機能が併設されており音楽リハビリやカラオケ、ボランティア慰問等イベントや敬老会、新年会等大きな行事もさざんか園全体で参加でき、利用者間の交流も頻繁に行う事が出来る。また緊急時も他事業所と協力し、問題に取り組むことが出来る。・地域住民との消防訓練や町内清掃、子供クラブとの交流会等、地域住民との関わりを重視している。・重度化し通院する事が困難な利用者様や緊急時には、提携している地域の病院に協力を仰ぎ往診して貰う事が出来る。・年2回の家族会や季節ごとのミニ家族会、また誕生会等イベントを企画し、家族様の来園するきっかけ作りに励んでいる。・スタッフ向けの研修が充実しており月に1度職場内全体勉強会があり、外部講師など呼び込み研修を受けている。また、管理者向けの研修も取り行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>高速道路のインターチェンジに繋がる国道385号線沿いという利便性に優れた場所でありながら、北に脊振山を臨み隣には田手川が流れ、春には菜の花、夏はホテル、秋にはススキと風光明媚な場所にある事業所である。地域の高齢者の拠りどころとしてデイサービスセンターを開所した後、行政から認知症高齢者事業所の開設を要請されて当事業所を開設した経緯があり、地域に根ざした地域交流や行政との協働ができています。敷地内にあるデイサービスセンターや小規模多機能事業所と繋がるウッドデッキでは、隣の川や花壇の花、草木を眺めながらの散歩や、テーブルを使用してお茶や食事を楽しむことができる程、開放感がある。法人の方針で、音楽療法に力を入れ、月2回のピアノ演奏での音楽リハビリやカラオケ等を実践している。また、月1回は保育園児の訪問があり、幼児との交流が刺激となっている。家族会を年2回、ミニ家族会を年3～4回実施して、家族とのコミュニケーションを図っている。職員研修も月1回、外部講師を招聘して実施しており、質の高い支援ができることを目指している。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の第4項目に地域密着への意義を踏まえた理念を入れ、毎朝の申し送り辞に勤務職員で読み上げている。	5項目ある運営理念の中の一つである「地域に開かれた施設であり、地域との交流の手助けに努めます」を毎朝の申し送り時に勤務職員で読み上げ、理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としてクリーンデイや年度初めの総会への参加、また運営推進委員会、ふれあいまつり、避難訓練など地域の住民に参加協力を仰ぎ交流に繋げている。	事業所は地域の一員として自治会に加入し地区総会やクリーンデイ・子供クラブの行事等に積極的に参加している。施設のイベントの案内も回覧していただき、地域住民の参加協力の呼びかけをして交流に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人内の他事業所で行っている家族、地域向けの介護者教室を取り行っており、事業所内の家族に参加の声掛けを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回のペースで運営推進会議を執り行い、事業所の近況報告や議題を設けサービス向上へ向けての意見を頂いている。頂いた意見は本部でまとめ、代表者会議にて各事業所へ繋げ、サービス向上へ向け取り組んでいる。	運営推進会議は同法人の三事業所合同で2ヶ月に1回、2地区の区長・民生委員・地域代表・家族代表、地域包括支援センター福祉課職員の多数の参加を得て、開催されている。会議では利用者の近況や事業所の実態、職員の動向等を報告し、双方向から意見等が出されており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉課職員に運営推進委員になっていただき運営推進委員会に参加して頂いている。その際意見交換を行っている。	地域包括支援センターの担当者は2ヶ月1回の運営推進会議のメンバーでもあることから、ケアサービスの取り組み状況等も把握していただいている。また、中部広域連合や町の福祉課とも密に連携を執っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関への施錠は行っておらず、ベッドから転落の恐れのある利用者の方は家族へ同意をいただきベッド柵の利用を行っている。状態が落ち着いてきた際はカンファレンスにて職員間で話し合い柵を外していくように努めている。	全ての職員が身体拘束による弊害を理解しており、拘束はしていない。日中、玄関の施錠はされていない。利用者の中には、夜間の安全確保のためにやむをせず居室の出入りに鈴を付けたり、ベッドサイドにセンサーを付けている方もいるが、それに頼らない見守りによる支援に努めている。また、法人全体で外部講師を招いて年1回の研修や事例発表を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体の勉強会にて年に1度は虐待について勉強する機会を設けている。事業所では入浴時にアザの確認等を行いどういった時についてしたものなのか職員間で確認を行うよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に学ぶ機会には設けてはいないが月1度の勉強会の中や派遣された外部の研修の中で学ぶ機会がある場合もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営事項、契約書の説明、施設紹介をし、納得した上で契約締結を行い契約終了後家族と担当者会議で今後の方針を決定した上で入所となる。運営事項の変更がある場合、書面にて説明し同意をもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を聞く為玄関に目安箱を設置、また、面会時に意見を聞いたり、サービス担当者会議を開き反映に努力している。	家族会が組織されており、年2回の開催とミニ家族会を年3～4回実施し、家族や利用者の意見や要望を聴く機会を設けている。また、アンケート等を集約してそれらを運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にスタッフが管理者に意見を伝える体制を取っており、代表者会議で提案したり、月1回のカンファレンスで代表者、管理者も集まり意見交換し、反映できるように努めている。	理事長や園長・副園長・統括・管理者は、年2回職員との個人面談を行い直接話し合う機会を設けている。また、役職員や管理者は、同法人三事業所合同の毎月のカンファレンスで職員の意見や提案・要望等を聴く機会があり、そこでの意見等を業務運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度で職員の実績を査定し、ボーナスや処遇改善交付金の振り分けに反映されている。また、資格取得時、互助会費から祝金が配布され、資格手当の給付によりスタッフの向上心、モチベーション維持を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間カリキュラムを作成し、月1回全体勉強会の実施(外部講師に依頼する場合もあり)、又研修会などに希望者や適任者を毎月2~3名程度全事業所から選出し参加出来る様になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は色々な研修に参加を促しており、参加した際、同職種の人達と交流、ネットワークづくりを図る機会がある。月1回の勉強会では時折外部の介護事業所に声をかけ参加してもらう機会がある。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で本人、家族の要望を確認している。初期は本人との会話の時間を増やし、その中でニーズを見つけ出したり、信頼関係を作り、本人が場に馴染めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で本人、家族の不安や要望を聞き入れ、サービス開始しても本人や、家族面会時に話を聞き、解決できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者や見学者など来園された際、本人の段階を聞き取り、併設施設のデイサービスや小規模多機能など本人の段階に合わせて紹介し、グループホームと合わせて見学していただいたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要最低限の礼儀は尽くすが、アットホームな関係を築けるよう心掛けている。家事など手伝ってもらえる時は手伝ってもらい、お互いが楽しみながら生活できるよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会やミニ家族会等イベント時に家族へ呼びかけ、極力参加して頂く様にしている。必要時は家族に衣類や消耗品等必要物品の用意をして頂いている。サービス担当者会議では家族と一緒に今後の方針を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から情報を得て希望があれば郵送予定のない方も園だよりにて近況報告をしている。他事業所の知り合い利用者に顔見せにいく機会があったりドライブ時には本人の住んでいる地域を周る時もある。	隣接の事業所の利用者や面会の人も多く、馴染みの人との関係継続ができています。毎日の食材購入にもストアへ同道したり、利用者の自宅周辺へドライブに出掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲の良い人は近くに座れるよう配慮している。また孤立している方が居る際は声掛けを行う様にしており利用者間のトラブル時にはスタッフが仲介したり距離を置く様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体の状態変化等で入院や転院された入居者様、ご家族様でも相談があれば話を聞き支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	サービス計画書の3ヶ月毎の見直しや状態変化時の見直しをサービス担当者会議をふまえて行い、常に本人様の思いを汲み取ることができるよう取り組んでいる。	朝礼時に利用者一人ひとりにやりたいことや希望を聴いて、その日一日の計画を立てて支援している。困難な利用者については、家族を通じて希望を聴いてケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の基本情報作成時の時に家族からより多くの情報を聞き取る努力を行ない、かつ普段の面会時でもその方の生活歴など聞き取る会話をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で家事手伝いや活動時の様子を見て本人の現状の能力把握に努めている。また認定調査時の情報開示の資料収集や主治医からの情報提供を細かく基本情報に記入し、状態変化時は更新行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日サービス計画書に基づいたサービスをモニタリングしている。月1回のカンファレンスにて担当者や管理者、他職員とサービス計画について協議している。	介護計画は3ヶ月ごとに見直し、本人・家族・担当・関係者と話し合いをして現状に即した介護計画を作成しており、計画に基づいたサービス提供ができていないか、毎日モニタリングをしている。また、月1回のカンファレンスにおいて、管理者・担当者・他職員と介護計画について協議・評価をして、利用者本位の支援を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの記録を記入し、毎日行っているサービスに対するモニタリングを表でチェックする事で1ヶ月毎の見直しや状態変化時の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状態の向上に向け、施設入所に置いて受けられるサービスの個別支援(訪問マッサージ等)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブ時は本人の住んでいた地域を周ったり、地域の活動への参加、買い物時の商業施設の利用など行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に入居時にかかりつけ医の相談をし、24h対応可能な事業所と連携している病院を紹介している。納得が得られない場合は家族の望む病院を利用するようにしている。	受診は、入居前のかかりつけ医への継続受診を基本としているが、本人や家族の希望で協力医への変更も支援している。訪問診療の医師の週2回の訪問と月2回の診療が実施され、緊急時には協力医院に24時間対応いただける体制が確立されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル異常時や怪我の処置、急変時など職場内の看護師に伝え、対応してもらったり、かかりつけ医とのパイプ役になってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後はお見舞いに行き、病院関係者や家族から話を聞いたり、治療の具合を確認している。治療が進んできた際は病院関係者や家族と情報交換をしながら退院の日付を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に重度指針をいただき、重度化し、終末期を迎える際本人、家族を交え話し合い、出来る事を説明し、納得してもらった際に取り組んでいる。連携している医師にも説明をし、協力してもらっている。	利用契約時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族等に説明をしている。また、重度化した場合には再確認を行い、利用者の状態に合わせて家族や主治医と協議している。現在までに数人の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回施設全体の勉強会で応急救護を行っており、実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練にて昼夜の火災、地震など想定して行っている。訓練時は各職員に役割を割り振って避難を実施している。年に1回は地域住民にも声を掛け協力を仰いでいる。	消防署の立ち合いの下で、年3回火災、夜間時、地震等を想定した避難訓練を行っている。同法人三事業所合同の訓練には地域消防団や住民の参加も得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの自尊心を傷つけないよう言葉遣いや態度に留意している。	利用者の自尊心や誇りを損ねない言葉かけや対応に留意して支援している。法人では職員の接遇について、年1回の外部講師による接遇研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉に耳を傾け、また行動、表情を観察して素直な思いの表出や自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の朝の会でお茶を飲みながらその日の日程を利用者様と決めている。個人のやりたい事を安全におこなえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔や整容、爪切りや洋服が汚れた際の行為を支援している。また定期的に訪問美容室を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の準備、調理は出来る事をスタッフと一緒に喋りしながら行っている。後片付けも手伝ってもらえる。食欲が湧くよう盛り付けにも留意している。	朝食・夕食は事業所で調理している。昼食はデイサービス事業所から配食されているが、夕食の献立は利用者の希望を聴いたり、昼食を参考にしてリビングのボードに献立をお知らせしている。利用者の中には、職員と一緒に食器の下膳や洗い物の手伝いをしたり、おやつ作りでお団子やいも饅頭を上手作られる方もあり、食事やおやつが楽しみなものとなるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量、水分摂取量をそれぞれ記録し、チェックしている。また利用者様個人の体調に合わせた食事形態で提供している。月初めには体重測定を行ない身体の状態変化に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には歯磨きやうがいを本人の状態に合わせて歯ブラシやスポンジブラシ、ウェットシートを使い口腔ケアを行っている。義歯は夜間取り外し洗浄液に浸し清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用い時間を見ながら排泄のサイクルの予測し、排泄誘導や声掛け支援を行っている。また直接訴えができない利用者様が落ち着かない様子時も排泄の可能性がある時は誘導を行っている。	排泄チェック表を用い時間を見ながら一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心掛け、誘導でトイレで排泄できるよう支援している。パットや紙パンツ等の利用も本人の状態に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランスの考慮や1日1回は乳製品提供し、便通に気を配っている。排泄時は腹部マッサージや便秘時の整腸剤や緩下剤の服薬など支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の順番は決まっているが、朝の会の時に入浴希望者を聞き希望がある際は調整をはかるよう努めている。入浴の時間も本人の希望に合わせて体調の変化に気を配りながら長く摂ったり短くしたりしている。	入浴は、基本的に週2回としているが、本人の希望があれば、何時でも入浴ができる体制となっている。入浴不可能な利用者には清拭を行い清潔を保てるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況を見て日中の静養や活動参加に気を配っている。生活リズムを整え夜間気持ちよく眠れるよう支援に努めている。また冷暖房や寝具の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更時はNsより説明を受けスタッフに周知出来る様にしている。また服薬時は薬の嚥下を確認し、服薬後も薬の空をスタッフ間で確認し服薬漏れを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	困難な状況も多いがその中で出来る事を行ってもらおうようにしている。各居室にはその人の私物などを置いている。気分転換の行事やドライブ等一度に参加が厳しい時は数回に分けて取り組むようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の状況を見ながらドライブ支援や散歩を行っている。また買い物時や時折みえる移動販売に顔をだし、買いたいものを預り金から購入するようにしている。	利用者は、週1回来所する移動販売車で、ほしい物を購入したり、週2回デイサービスへ音楽療法に出掛けて楽しんだり、隣接の小規模多機能事業所で、カラオケを楽しむ等、本人の希望に沿って外出できるよう支援している。また、季節ごとに花見に出掛けたり、日々の食材の買い出しに同道する等、日常的に外出の機会を作って支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診や本人の趣向品や必要物品の購入の為に預り金を預かっている。予め家族に許可をいただき必要時に使っているが金額が大きなもの、新たに必要になる物がある時は家族に相談して購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人による電話は認知力の低下の為難しいため面会に来てもらえる様家族に声掛けを行っている。毎月の園だよりに担当スタッフよりの近況報告、家族会やミニ家族会の実施、誕生会時の誘い掛けなど面会しやすい雰囲気づくりにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には日差しが入り季節の花々を植えており、居間から眺める事も出来る。ホールには季節を感じられる物を飾るようにしている。(季節の貼り絵、ひな壇、クリスマスツリー等)各居室はバルコニーに繋がっており四季の風景を眺める事が出来る。	事業所の中心に中庭を配し、リビングと高床の畳の間には南側からの日差しが入り暖かく明るい。キッチンも見守りしながらの調理ができる設えとなっている。四隅にトイレを配置し、季節の壁飾りをして安心安全を図っている。南側の居室からはバルコニーへ出ることができ、四季折々の風景を眺めたり、日向ぼっこができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルが2つある他に畳がある居間、一人掛けのソファや二人掛け、三人掛けのソファが置いてあり日々の気分で好きな場所で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個室には仏壇やタンスなどこれまでの生活に馴染んだものを持ってきていただいている。入居される以前の写真や入居後の誕生日の色紙などを飾り、プライベートな空間を作っている。	各居室は明るく、日差しが良く入り心地良い。全居室手洗いの洗面台を設えている。利用者の使い慣れた家具やソファ・仏壇・写真・小物が持ち込まれ、色紙で飾る等して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂等日ごろ使うことの多いところは大きな字で分かり易く表示している。廊下やトイレには手すりを設置している。また日めくりカレンダーや季節の物を設置して季節を自ら感じられるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない